

本活動レポートは平成 25 年度に作成したものであり、
登録者の所属及び内容は作成時のものです。

人材登録事業の活用事例

【鳥獣保護管理捕獲コーディネーター】

■人材登録事業利用者

大分県農林水産部森との共生推進室

■依頼を受けた登録者（鳥獣保護管理捕獲コーディネーター）

青木 豊（一般財団法人自然環境研究センター）

■登録者への依頼事項（概要）

平成 25 年度第 5 回・第 6 回大分県鳥獣害対策アドバイザー研修会講師

（利用者からの報告）

■利用申請に至った背景

大分県では行政及び農業団体等関係者と集落の農業者等を対象に、鳥獣害に対する研修会を実施している。目的は、防護柵や捕獲等のハード対策を進める一方で、関係者に対する鳥獣害の認識を向上させるためである。特に今回は、効果的な捕獲に関する講義が必要であると考えていた。

■登録者との事前調整

捕獲コーディネーターとしての本登録者に研修会の主旨を伝え依頼した。また、所属先の自然環境研究センター理事長あてに青木講師の派遣依頼を行い、その後、費用として旅費及び報償費について手続を行った。

■本事業の活用による成果（利用者の感想）

講演会は 2 日間に渡り開催され、合計 194 名の参加人数となった。講義の初日は「野生鳥獣の効率的な捕獲について」をテーマに座学を行ってもらい、2 日目は「箱わな、くくりわなによる捕獲について」と題し、現場における捕獲用具の使用等、幅広い知識と自らの捕獲に携わる実践的な活動を踏まえた貴重な指導をいただいた。大分県でも狩猟者の確保・育成は大きな課題であり、若者を対象に狩猟に対する魅力を伝え、狩猟免許保有者のスキルアップを目指していくうえで、今後とも同氏には定期的に来県していただき、協力を要請する計画である。



（登録者からの報告）

■依頼を受けて実施した内容

大分県からの要請で研修の講師を担った。イノシシ、シカ、サル等の野生鳥獣による農林業被害が深刻化している中で、県内各地域で農林作物の被害防止対策を的確かつ効果的に実施するため、地域において助言等を行うことのできる鳥獣対策アドバイザーを養成することを目指して講義を行った。特に捕獲技術に関する留意点について説明した。



県で育成に力を入れている鳥獣害対策アドバイザーの研修会の様子。
自治体、狩猟者、農業関係者等の幅広い参加があった。

